

の推進方策検討調査

旅行の推進等について)

1 調査の目的

沖縄県の美しい自然環境は、貴重な財産であると同時に重要な観光資源となっています。その保全や回復に配慮しながら観光振興を推進していくことが、沖縄観光を持続的に発展させるためには重要であることから、平成20年度は観光分野でのカーボン・オフセットの活用方策等について検討しました。

平成21年度は、それらを踏まえて※沖縄型カーボン・オフセット旅行を実際に企画し、モニターツアーの実施を通して、現状と課題を導き出しつつ、将来の展望を検証しました。また、沖縄型カーボン・オフセット旅行の推進に必要な方策を検討することを目的として、シンポジウムを開催しました。

※「沖縄型カーボン・オフセット旅行」とは、CO₂をなるべく出さず、地球温暖化防止と沖縄の自然環境の保全・回復に、直接的または間接的に貢献できる旅行のことをいいます。

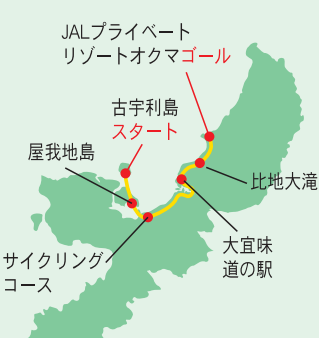
2 沖縄型カーボン・オフセット旅行の企画及び実施

特色ある自然環境や、独自のカーボン・オフセット行為などを組み合わせ、沖縄型カーボン・オフセット旅行を企画しました。本島では豊かな自然環境が今な

お多く残っている北部地域（やんばる）、離島では電気カーを導入していて沖縄の原風景が多く残っている渡名喜島の合計2地域を選定し、モニターツアーを実施しました。

①「自転車で行く『やんばるエ』旅」

- 実施場所
本島北部地域（古宇利島・大宜味村・国頭村）
- ターゲット
20～40代（若年層に向けてエコ要素だけでなく楽しめるプランの提案）
- 催行時期
平成21年
12月19日（土）～20日（日）
- 交通手段
貸切りバス、自転車（30km）
- オフセット対象
県内移動で排出されたCO₂排出量（一人当たりCO₂排出量59.9kg CO₂）
- 旅行代金
12,719円
（基本代金12,000円＋オフセット料金719円）




- ◆削減努力
自転車、マイ箸の利用
- ◆費用負担
旅行代金の一部でクレジットを購入
- ◆環境学習
マングローブ植樹、ビーチコーミング、サンゴの植付け、地産地消の長寿食
- ◆オフセット行為
マングローブ植樹、サンゴの植付け、どうしても削減できなかったCO₂排出量はクレジットの活用によりオフセット
- ◆「観光客の評価」
いろいろなことが体験できて良かった。沖縄料理を楽しめる機会が多くて良かった。
歩きながら自然を観察したり触れたりすることで、沖縄の自然環境を知ることができ、ガイドの丁寧な説明があって旅を楽しむことができた。
自転車での移動に疲れたが達成感があった。

②「ゆったりとした島時間を過ごす『渡名喜島の旅』」

- 実施場所
離島（渡名喜島）
- ターゲット
20代以上で運転免許を有している人
- 催行時期
平成22年
1月15日（金）～16日（土）
- 交通手段
フェリー、電気カー
- オフセット対象
フェリーで排出されたCO₂排出量（一人当たりCO₂排出量113kg CO₂）
- 旅行代金
10,475円
（基本代金10,000円＋オフセット料金475円）



持続可能な沖縄観光

(沖縄型カーボン・オフセット)



◆削減努力
電気カーの利用

◆費用負担
旅行代金の一部でクレジット

◆環境学習
フクギ植樹

◆オフセット行為
フクギ植樹、どうしても削減できなかったCO₂排出量はクレジットの活用によりオフセット

《観光客の評価》

●短い時間ではあったが、渡名喜島の歴史や文化に触れあうことができて楽しいひとときを過ごせた。また、自然体験もなかなか普段にはない貴重な体験だったし、島民の方、他のツアー参加者の方との交流を持てたこともとても有意義なことだった。

●以前から訪れてみたいと考えていた渡名喜島で島の自然や地元の方に深く触れることができたことがとても良かった。特に現地コーディネーターの

対応が良く、とても感謝している。
●自分や子供たちにとつてとても良い体験になった。また、自分たちで植えたフクギを見に来ようと思う。

3 沖縄型カーボン・オフセット旅行シンポジウムの開催

平成22年1月28日、沖縄型カーボン・オフセット旅行の意義等について、専門家による基調講演やパネルディスカッションを交えたシンポジウムを開催しました。旅行業界（旅行業、宿泊業、運輸業、航空会社）、県・市町村、NPO等の各組織・団体の果たすべき役割について検討し、そのために必要なネットワークのあり方、沖縄県独自のCO₂排出量の算出やガイドラ



インの整備やクレジット制度の必要性などについて議論しました。

①基調講演

テーマ

「エコと旅とビジネスの両立」

講師

樋口誠司氏

(株式会社ジェイティービー 事業創造部 企画担当マネージャー)

②パネルディスカッション

(パネリスト)

宮里 哲 氏 (座間味村 村長)

白石 武博 氏

(株式会社カヌチャベイリゾート 代表取締役社長)

玉城 昌秀 氏

(株式会社かりゆし 専務取締役)

水谷 伸吉 氏

(一般社団法人モア・トゥリーズ 事務局長)

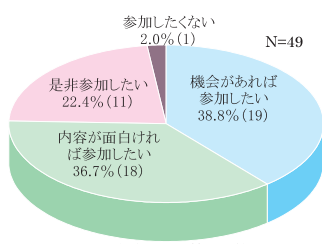
(コーディネーター)

伊波 貢 氏

(株式会社海邦総研 取締役経営企画部長)

シンポジウム参加者アンケート結果

Q カーボンオフセット旅行への参加意欲



注：()内の数値は回答数

4 沖縄型カーボン・オフセット旅行の推進に向けて

今回のモニターツアーやシンポジウムを通して、沖縄型カー

ボン・オフセット旅行の推進における課題や方向性を以下のとおり整理しました。

●沖縄の自然環境保護、観光地の価値向上のためにも、沖縄型カーボン・オフセット旅行の推進は必要。沖縄全体で取り組んでいくことが重要で、オフセットにより集められた資金が沖縄県内の環境活動に還元される仕組みをつくり、その中心となるカーボン・オフセット組織を確立するなど検討する必要がある。

●旅行中のCO₂排出量の算出については、精度にこだわると時間や費用もかかるため、極力シンプルで誰にでも簡単に使える仕組みをつくり、利用を促進する必要がある。

●ツアーの魅力を高めるためには「(サンゴの植付けやマングロープ等の植樹など)沖縄の独自性が強いプログラムづくり」が重要。旅行商品としては通常のツアーと比較してどうしても割高になるため、質の高さでカバーし、それを観光客にアピールすることが大きなポイント。